

こどもに光あり

住田恵孝さん (52) 児童福祉司 土浦市

唯一といわれる厚生省認可の私立養護児童学校「向懸養護学園」だ。住田さんはこの学校の経営者。さる二十一年に設立されたものだが、この学校が建つまではこんなお話がある。

終戦直後、住田さんの一人息子向懸ちゃんが九つとき、近くの電線鉄塔切りで汽車にはねられて死んだ。このとき住田さんは養育を失った悲しみの代りに世間の不幸な子どもたちに対してなにかやってみようという理想を抱いた。それも他人のできないうずかし事業を。最初は身体障害者の治療児童学校の設立に奔走した。篤志家を訪問して寄付も集まり、やっ

と設立できるまでにこぎつけた。うち三名は精神児だという。だが精神児に対する福祉施設は完

常盤線の上り列車に乗って神立駅を出ると向懸ちゃんもなく、右手の車窓から、田んぼを越した小高い丘の端に、赤い屋根の平屋建

お布施投げだす

全国唯一の養護学園経営



住田さんと遊ぶ子どもたち

うちは精神児だという。だ

として完成したのが赤い屋根の精神児学校だが、その名は失った養育の名をこめて「向懸養護学園」とした。さきこの学園には不幸な運命を背負った十九人の精神児がいそいそと学んで

のため共同基金やお年玉賀はがきの配分が受けられず、経営も苦しい。しかし住田さんは自分も犠牲にしてこの事業と取り組んでいる。「救われないものはどこまでも救われないのだ

問題を決するまでは、なんども訪問して根気よく説得を続ける。それもさつぱらに。体当たりで住田さんの説得がけりには、がんこなわからず屈の弱たちも、たいていはカフートを抜いて協力してくれるぞうだ。

す最初の夢は崩れた。しかし住田さんの固い決意は変わらなかつた。二番目は精神児の養護学校の設立。五百人の学齢児の

念えない。自分の不注意から失った養育の罪に報いるためにもぜひ実現しなければと、住田さんは日夜かけ回った。

状態が酷くというのが精神児の特徴だけに、その教育はむずかしい。月謝は四千五百円。内容は福祉事業なのだが、学校形式

これまでに「千住巧ものゲースを扱ってきた。犯罪少年はもとより身体不自由児、盲ろうあ児、精神薄弱児、障がい、環境不適などともたちの相談、指導役として家庭や学校を毎日、自転車まで巡回、恵まれない子どもたちに幸福を与えようと専心している。「児童福祉社としては

実効的な存在です」と佐藤氏。これからも社会第一歩のための献身的な努力が続けられることだ。

大正大学仏教科出身で、神立の親善会というお寺のレッキとしたお坊さんだが、理家のお布施もみんなこの事業に注ぎこんでしまふ。しかし住田さんの本職は十年前からやっている児童福祉司の奥中央児童福祉所の一員として土浦市管内の十浦石岡、新治地区を担当している。住田さんは戦前には、藤村の弟の指導育成のため、奥さんの綾子さん(の)とも神立養護児童学校を経営してきた。この学校はそれまでの地域中心の教育から脱皮して表参道中心の教育をしようというのが本ライだった。藤林省が注目して「都立の愛」という題名でこの学校を医局化したこともあった。住田さんは「二十一年もこの事業に専心して、子どもの幸福を念じながら、こどもも福を注ぎこんで来たのだ。